

育児休業に関する体験記 2

40代 31日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

家事全般と沐浴を私が、育児を妻が基本的に担当することにした。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

妻が仕事を辞め一時的に専業主婦となっているため、平日の家事については妻にお願いしている。育児については上の子の世話も含め適宜役割分担しながら進めている。

(妻 記載欄)休業取得者の家事・育児の参画の状況について

おおまかな1日の家事の流れを決めてそれに沿ってやってもらいました。嬉しかったのは寝不足の時に夜の育児を代わってくれた事です。一人ではないという、気持ちの面で支えてもらいました。家事・育児を女性主体ではなく共有することで、お互いの大変さに共感できたことも大きい成果ではないかと思います。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

休業中に対応しなければならないことを、まとめて引継担当者に説明した。

2. 評価・反省

自身で対応するように休業取得前後のスケジュール調整をした。引継依頼する量を極力少なくすることができた。

③自由記述

7年前に長男が生まれた際は一ヶ月ほど有給休暇を取得、家事育児を行いました。今回も育児休業を取得したいことを事前に上司に相談しました。前回の経験があるので、家事育児の流れに戸惑いはありませんでした。年齢のせいか前回よりも体力的な負担が大きかったように思います。

生まれた子だけではなく、長男のケアにも気を配りました。中間反抗期と重なり夫婦で頭を悩ましたのが妹を可愛がる姿を見せてくれるので、成長を感じながら長男と深く向き合う時間を持つことができました。家族4人で過ごす時間を多く持てたこの一ヶ月は、大変貴重で有意義なものでした。

社内外含めた周囲の方々の男性育児休業に対する考えを聞く機会が何度かありました。近年は、育児休業する男性も増えたので「育休が取れる会社は素晴らしい」「誰かが取得すると次の人が取得しやすくなりますね」と概ね好意的なものでした。また、「自分の状況では無理、居場所がなくなる」「仕事休んだら昼間結構、時間あるでしょう」といった内容の話もあり、まだまだ男性育児休業への認識不足などハードルは高いと感じる場面もありました。